

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎書くこと読むことの領域で、「根拠に基づいて考えの記述」の正答率が36.2%と、県の平均通過率と比べて17.7%も低く、苦手としている。正答率の低さもさることながら、類型以外の解答が29%、無回答の数が26%と極端に多い。まず、課題を正確に読み取る力が不足していることと、記述するというところに最初から抵抗感をもっている生徒が多いようである。

◇A問題 B問題ともに全ての領域、評価の観点、問題形式ともに全国平均・県平均を上回っている。ただしその中で「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」力を問う問題が正答率83.9%と県平均に比べて7.2%下回っていた。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

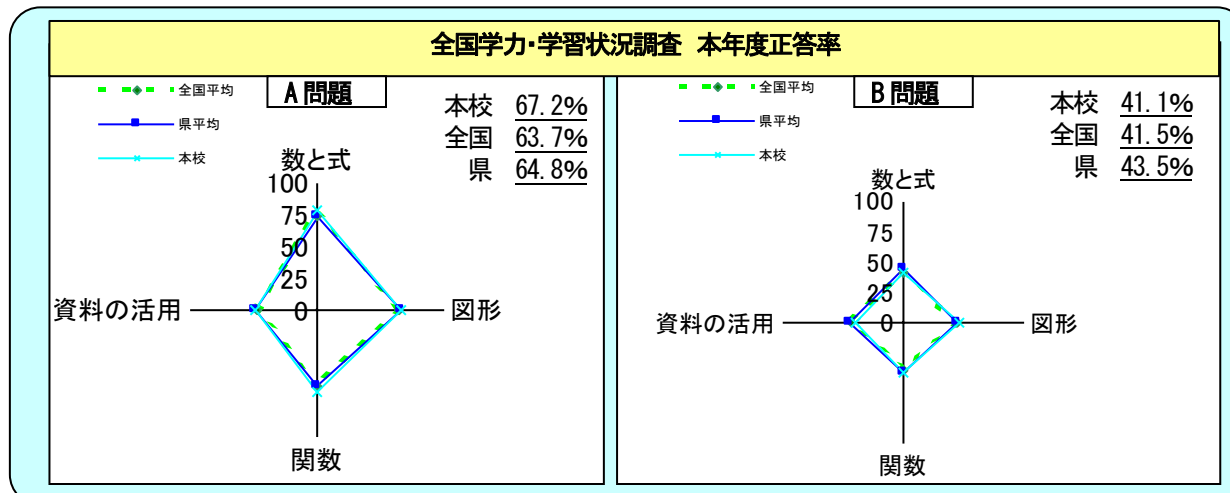
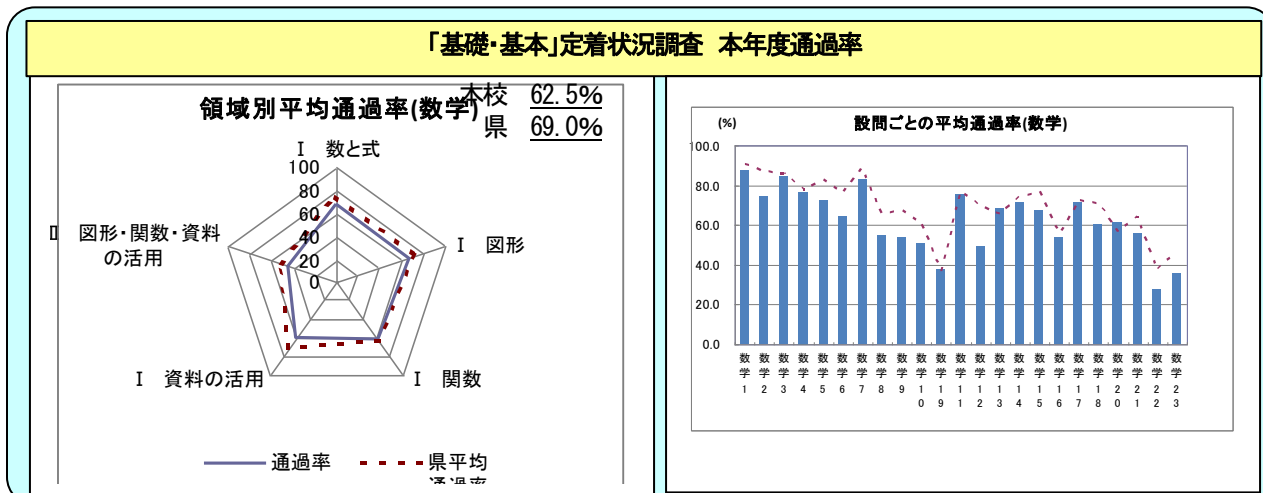
◎問題を読み解くことを練習に取り入れる。何を問われているかを箇条書きに変えていくことで、問題を整理することができ、一つずつ段階を追って理解することに役立つ。その作業を通して、何をどのように考え、どのようにまとめたらよいかを身につけさせ、学力の向上を図る。

◇漢字力や語彙力をつけるために、生徒が協力して課題を解決していくグループ学習を取り入れ、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中で意味をとらえる機会を設ける。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生 H24「基礎基本」	2年生 H25「基礎基本」	1年生 H25「基礎基本」			
目標値		重点課題(言語事項)85%	重点課題(登場人物の心情の把握)55%	県平均71%			
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 H25「全国学力」	
目標値						全国平均76%	
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔数学〕



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎数と式の領域に関して、四則の計算で21%の生徒が、除法よりも減法を先に計算している。
 式の値を求める、一次方程式を解く問題の通過率が県平均より、10ポイント以上も低く、基礎学力が十分に定着していない。

◎数学的な見方や考え方の問題に関して、資料の活用以外の領域の問題の無回答率が多く、通過率が県平均を下回っている。数量の関係を式で表すことや、問題解決の方法を数学的に説明する力の育成が課題である。

◇A問題は、すべての領域において広島県、全国ともに正答率が上回っているが、B問題において資料の活用で、広島県、全国を12ポイント下回っている。数学的に考察することが課題である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

◎基礎的、基本的な技能が十分に定着していない生徒が多いため、習熟度別少人数指導を活用し、反復学習をすすめる中で、基礎学力の定着を図る。

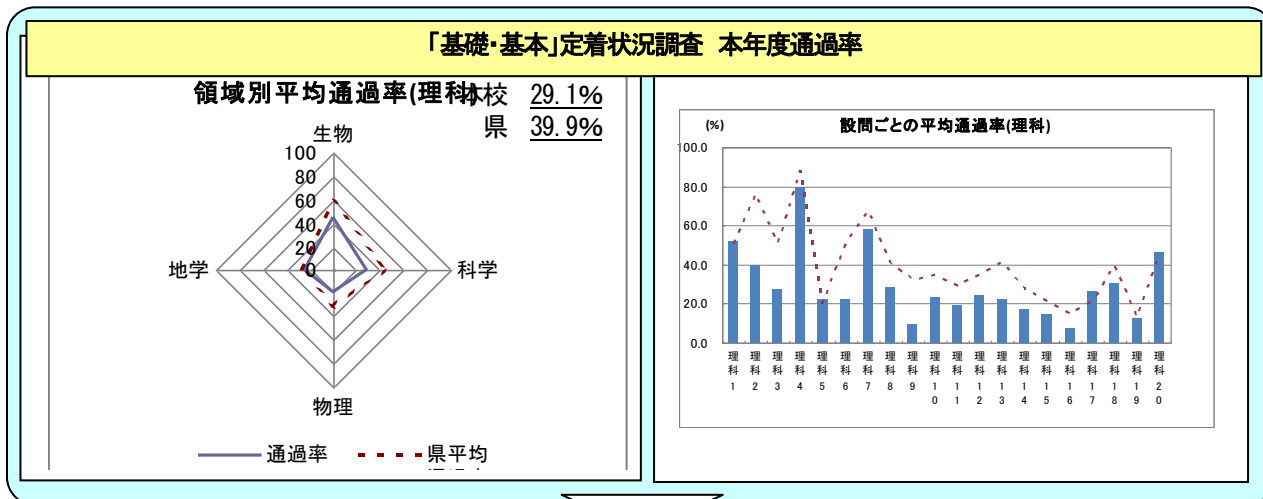
◎◇思考、判断し、説明する力や表現する力を育てるために、ペアやグループでの教え合い活動の中で、自分の考えを発表する活動や、友達の考えを聞きながら考察を深めて行く活動を仕組んでいく。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生 H24 基礎基本	2年生 H25 基礎基本	1年生 H25 基礎基本			
目標値		82%	1次方程式 70%	県平均 69%			
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年生 H25「全国学力」	
目標値						A問題 60%	
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔理科〕

広島市立 亀崎 中学校



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

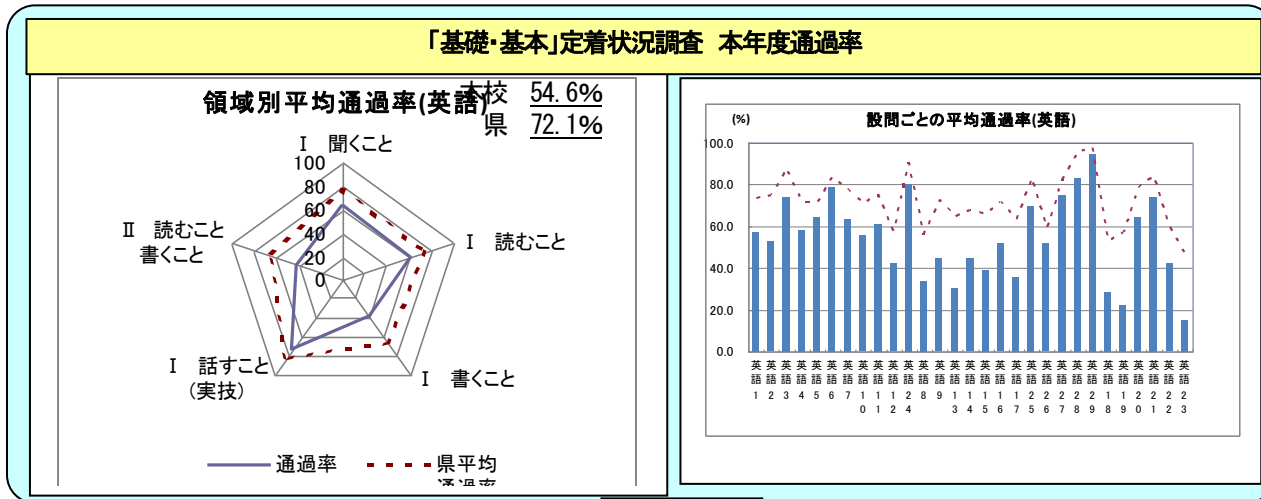
◎県平均にくらべ通過率が特に低い設問6(県50%・本校22%),設問9(県32%・本校10%)は「質量」「炭素」という重要な用語を問う設問であり、用語を覚えていない生徒には答えることができない。また、県平均にくらべ通過率が高い設問17(県20%・本校26%),設問20(県45%・本校46%)は1年生の3月に学習した内容で、本校では6月初旬に試験をしている。このことから見えてくる本生徒の課題は日頃の学習習慣が身に付いておらず、学習したことを忘れていくことにあると考えられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ◎単元ごと、または、学期ごとに小テストを行い、重要語句を確実に覚えていくようにする。
- ◎生徒が協力して学習できるように、ペア学習やグループ学習を取り入れていく。

◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生 H25「基礎・基本」				1年生 H25「基礎・基本」
目標値			40%				50%
実施後数値							

◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法							
目標値							
実施後数値							



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

◎①読むこと書くことの領域に関して、「英語の文書を読んで必要な情報を取り出して、その情報をもとに自分の考えを英語で書くこと」や「資料や学習してきたことをもとに、自分の考えを伝える英文を書くこと」についての設問に関しては、無回答率が40%を超えており課題である。

◎②書くことの領域に関して、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」についての設問に関しては、通過率が30.5%と低くなっている。また、文法を理解した英文が書けていないことも課題である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

◎①長文問題に関して、問題を解こうとせずに、無回答の生徒が多いことから、普段の授業の中で、ある程度まとまった文章を定期的に読ませる機会を作り、英語を読むことの楽しさを実感させるように指導していきながら、読む意欲をつけさせていく。英文を読んだの生徒同志の発言をつなげるなどし、共感的人間関係を育成する授業づくりを行いながら、英語学習への意欲を高めていく。

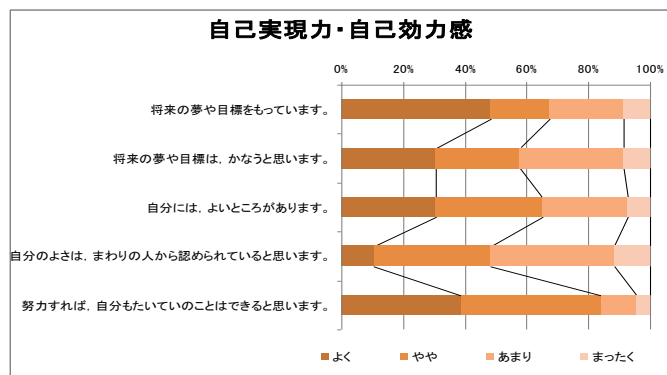
◎②書くことの課題に関しては、毎時間の授業の中で、振り返りの時間をもち、文法事項の確認を行い、基礎学力の定着を図るとともに、テーマを与えた英作文などを授業の中で取り入れ、書くことに関する力を高めるような活動を取り入れていく。書いた英作文に関しては、友達で共有しあい、間違いを正しながらも、正確な英文をしっかりと指導していくように心がける。また、書ける力を高めるためには、語彙力が必要となってくるので、日々の活動の中で、少人数授業の利点を生かしながら、語彙力を高める工夫も行っていく。

◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生 H24 基礎基本	2年生 H25 基礎基本	1年生 H25 基礎基本			
目標値		84%	大問⑧ 40%	県平均72%			
実施後数値							

◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法							
目標値							
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）

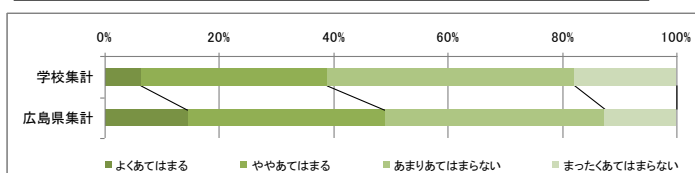
(1) 生活・学習



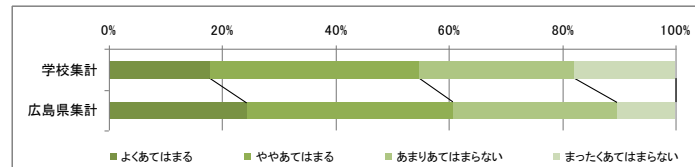
	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	「自分によいところがある」は過半数や県平均を上回っているが、「自分の良さを認められていると思う」は過半数および県平均を下回っている。	日常の授業や学級活動で、関わり合い、認め合う活動を工夫し、自己肯定感の向上を図る。	2	47%を60%に	学校評価アンケート	12月		
全国	役に立つ人になりたいという願望を95%程度が持っているが、自己肯定感や全国平均並みの70%程度に留まっている。	関わり合う授業やボランティア活動を日常的にもっと仕組み自己効力感の実感を持たせる。	3	自己肯定感70%を80%程度にする。	学校評価アンケート	12月		

(2) 教科

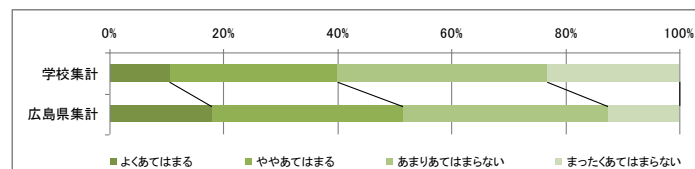
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



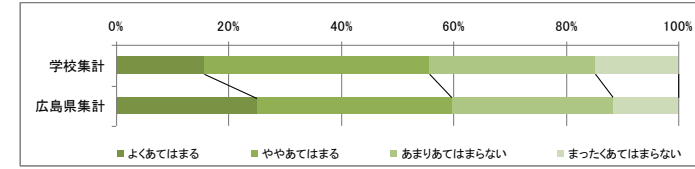
数学の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



理科の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



英語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本 学んだことの振り返りをしていないと感じている生徒が多い（している。38.9%）	既存の学習事項に対して、ペア学習やグループ学習を取り入れ、課題解決をともに進め、振り返る機会を設ける。	2	38.9%を50%に	生徒アンケート調査を行う。「振り返りをしている」について	2月		
	全国 国語の勉強は好きではないと答えている生徒が多い。（好き45.2%）	相互評価など、お互いの良さを認め合う機会を増やす中で、授業の中で達成感が持てるようにする。	3	45.2%を50%に	生徒アンケート調査を行う。「国語の勉強は好きですか」について	2月		
数学	基礎・基本 学んだことの振り返りをしていないと感じている生徒が多い（している。54.7%）	習熟度別少人数指導を活用し、ペア学習や教え合い活動の中で、理解度を上げていく。授業の中で「振り返り」を取り入れ、学び直しの機会を設けるようにする。	2	54.7%を70%に	生徒アンケート調査を行う。「振り返りをしている」について	2月		
	全国 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えていない生徒が多い。（考える35.5%）	既習の数学を基にして、日常生活や社会で数学を利用する活動をペア学習や小グループ活動を取り入れ行う。	3	35.5%を50%に	生徒アンケート授業で「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」について	2月		
理科	基礎・基本 学んだことの振り返りをしていないと感じている生徒が多い	家庭学習の方法を指導したり、宿題を増やしたりして復習の時間を増やす。また、生徒が協力して学習できるように、ペア学習やグループ学習を取り入れていく。	2	10%を20%に	生徒アンケート調査を行う。「振り返りをしている」について	2月		
英語	基礎・基本 英語を得意であると感じている生徒は少ないが、現在行っている少人数で学習することでよくわかると感じている。	今後も、習熟度別少人数コースによる授業の利点を生かし、ペア学習や小グループ活動等の自己存在感を与える授業を取り入れることにより理解度を上げていく。そのためにも「振り返り」を取り入れる。	2	15%を50%に	生徒アンケート調査を行う。「振り返りをしている」について	2月		